

## 【基盤研究(S)】

### 人文社会系（人文学）



#### 研究課題名 アナトリアに於ける先史時代の『文化編年の構築』

（財）中近東文化センター・アナトリア考古学研究所・所長 おおむら さちひろ  
大村 幸弘

研究分野：考古学

キーワード：アナトリア、文化編年

#### 【研究の背景・目的】

アナトリア考古学で最も発掘調査の遅れているのは『先史時代』（前2千年紀以前）である。特に、前期青銅器時代から新石器時代にかけての層序的研究は行なわれていない。考古学の基本は、『層序』であり、それを基に構築される『文化編年』である。本研究では、カマン・カレホユック遺跡（1985年予備調査、1986～2009年発掘調査、これまでの発掘調査でオスマン時代から前期青銅器時代末までの『文化編年』を構築）の前3千年紀～前7千年紀、前期青銅器時代から新石器時代の『文化編年』を構築することに主目的を置く。

アナトリア考古学では、オスマン時代から新石器時代までの『文化編年』が、一つの遺跡を通して構築された例は極めて少なく、これまで構築されたものも再検討される必要がある。当該遺跡は、トルコ共和国のほぼ中央部に位置しており、東西、南北の文化が重層的に堆積しているのが一つの特徴である。この当該遺跡の先史時代の『文化編年』を構築することにより、先史時代に於いて古代中近東世界で東西、南北のほぼ中央部に位置するアナトリアが文化的にどのような役割りを演じたかを解明したい。

#### 【研究の方法】

本研究は、カマン・カレホユック遺跡の発掘調査を中心に置く。この発掘調査では、重層した文化層を上層から下層へ向けて『仮層』を用いながら掘り下げるのを一つの基本とする。研究対象となる発掘区は、これまでオスマン時代から前期青銅器時代末期までの『文化編年』を構築した北区であり、特に、I～XII区（10mx120m）がその研究対象となる。

平成22～26年までの研究期間中に約5～7mあると推定される先史時代の堆積層を、毎年約1mずつ掘り下げる。また、発掘区の断面に注目し、遺構、遺物、断面の整合性を精査することに重点を置きたい。



図1 カマン・カレホユック北区

#### 【期待される成果と意義】

カマン・カレホユック発掘調査では、出土遺物、主な断面などを保存しており、それらを十分に活用出来る状態にある。平成14～18年度、基盤研究(S)の助成を得て歴史時代に関する「文化編年」を再構築する際には、出土した遺物、断面が研究を進める上で極めて効果的であった。

本研究では「文化編年の再構築」の際に採用した土色、遺物、遺構の出土状況により層序を判定する『仮層』を採用する。これは、1986年遺物を取り上げる際に考案したものであるが、層序を確立する上では有効であることが実証されている。本研究でもこの『仮層』を駆使しながら、アナトリア考古学の基層をなす『文化編年』をより明確にすることが出来ると考える。

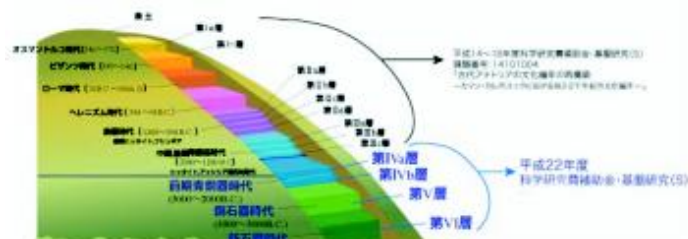


図2 カマン・カレホユックの文化編年

#### 【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・「アナトリア考古学の「文化編年」の問題点－カマン・カレホユック発掘調査を通して－」『東方学』 第百十五輯 東方学会（2008），pp.158-168
- ・“2003-2006 Yılları Kaman-Kalehöyük Kazıları”, 29. Kazı Sonuçları Toplantısı 3.Cilt, s.1-16, Ankara 2008.
- ・“Preliminary Report on the 21st Excavations Seasons at Kaman-Kalehöyük(2006),”Anatolian Archaeological Studies(AAS) Vol. XVI, Kaman-Kalehöyük 16 (2007), pp.1-43.

#### 【研究期間と研究経費】

平成22年度～26年度  
123,600千円

#### 【ホームページ等】

<http://www.jiaa-kaman.org/jp/index.html>  
tokyo@jiaa-kaman.org